

開港
150周年

新潟を支える「みなと」の今

世界に開かれてから150周年を迎えた新潟港。水辺と共に歩み、発展してきた私たち新潟市民にとって、港の風景はとも身近なものです。一方、新潟港には重要な役割もあります。今号では、新潟港で何が行われているか、どんな機能を果たしているかを紹介していきます。

東港区 国際的な物流の拠点



▲コンテナ船が積み下ろしを行うコンテナターミナル

北区と聖籠町にまたがって建設された東港区は、東港工業地帯の核として昭和44年に開港しました。55年には外貿コンテナ航路が開港され、現在は中国、韓国へ週9便の定期コンテナ航路が運航しています。平成23年の東日本大震災発生時には、被災した東北太平洋側港の代替機能を果たし、同年のコンテナ取扱量は過去最多となる約20万5千TEU*を記録しました。

本州日本海側港
取扱総貨物量(平成28年)

1位 新潟港
3,037万トン

2位 敦賀港(福井県) 1,564万トン
3位 舞鶴港(京都府) 1,082万トン

※出典:国土交通省港湾局「港湾統計(年報)」

本州日本海側最大規模の設備を持つコンテナターミナルでは、1日に3隻のコンテナ船が同時に積み下ろしをすることができます。東港区は工業港としてのイメージが強く、市民の皆さんはあまりなじみがないかもしれませんが、実はホームセンターなどで見かける日用雑貨や家具類など、皆さんの生活に身近な品物を多く受け入れているんですよ。今後は、新たなコンテナ航路の開拓で取扱貨物の量を増やし、新潟港のさらなる発展に貢献したいと思っています。



新潟港国際貿易ターミナル 吉沢郁夫さん



▲ダイヤモンド・プリンセス(写真提供:プリンセス・クルーズ)

2019年 クルーズ船寄港予定

期 日	船 名	寄港場所
4/14(日)、11/15(金)	ダイヤモンド・プリンセス	新潟東港
4/26(金)、5/31(金)	カレドニア・スカイ	新潟西港
4/30(火)	クワンタム・オブ・ザ・シーズ	新潟東港
5/23(木)	シルバー・エクスプローラー	
6/29(土)、7/2(火)	にっぽん丸	
9/3(火)・5(木)・9(月)・23(祝)	飛鳥Ⅱ	新潟西港
9/6(金)・8(日)	ばしふいっくびいなす	
10/7(月)	シルバー・ミュージズ	

西港区 人々が行き交う海の玄関口

古くから港町として発展してきた西港区は、佐渡や北海道航路の旅客定期船が発着する新潟の海の玄関口です。新潟港の平成28年の内航(国内)船舶乗降人員は約131万6千人で、全国では16番目となっています。

本市では交流人口の拡大や新潟の認知度の向上、観光需要の創出を目的として、国内外からのクルーズ船誘致に取り組んでいます。今年度は初年度の4隻をはじめ、延べ15回寄港する予定です。



▲飛鳥Ⅱ



国際・広域観光課 乙川

開港150周年の今年には国内外から多くの旅行者が新潟を訪れます。みんなで温かく歓迎しましょう! 船内見学会も予定しています。市報やホームページで参加者を募集するので、楽しみにしてください。

万代島地区 港を身近に感じる交流空間



▲多くの来場者で活気づくピアBandai



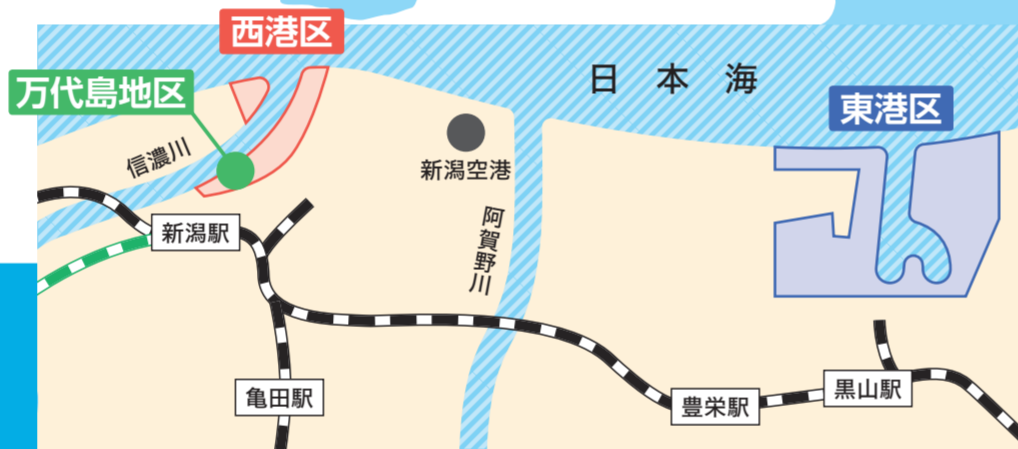
▲昨年7月「海フェスタにいがた」が開催された万代島多目的広場

信濃川河口部の万代島地区は、本市の中心市街地にも近く、人々が集まり、にぎわい交流の拠点としての役割を果たしています。平成22年には、旧新潟魚市場跡地に市民市場「ピアBandai」がオープン。隣接する漁港で水揚げされた鮮魚など地元特産品の販売所のほか、海鮮丼やすしなどの飲食店がそろい、新潟の食を気軽に楽しめる港の観光スポットです。また、30年には対岸の旧水揚場跡地に「万代島多目的広場」が完成。かつての水産物荷捌施設で、大きなかまぼこ型屋根が特徴的な屋内広場(通称「大かま」と、新たに整備された屋外広場は、誰もが港の景観に触れ、思うことができる交流の拠点として期待されています。



万代にぎわい創造棟 藤田晋さん

「港のそばで水辺のにぎわい空間を作りたい。昔からそんな思いを抱いていた仲間が集まり、ピアBandaiを運営しています。年間100万人を超えるお客様から来場いただいたとき、パークや生産者と直接触れ合えるイベントなど、いろいろな形で楽しんでいます。開港150周年をきっかけに、新潟50周年をきっかけに、新潟を横浜や神戸のような「港町」としてのイメージが定着する、ということが、これからは市民の皆さんが誇りに思える「みなとらしさ」を感じられる場所を作りたいと思っています。



新潟港の歴史

927年(延長5年) 文献に初めて信濃川河口の港についての記述が載る。平安中期の法令集「延喜式」に、越後の国津(公的な港)として「蒲原津」が記載される。

1672年(寛文12年) 江戸商人河村瑞賢が越後各地から川舟で集められた米などを北前船で直接大坂・江戸に運ぶ仕組みが確立。

1858年(安政5年) 「安政の五ヶ国条約」により開港五港の一つとなる。五港の中で「川湊」として唯一の選定。

1869年(明治元年) 新潟開港。水深が浅く外航船が入港できなかったことから、港の改修が緊急課題となる。

1889年(明治22年) 市制施行により新潟市誕生。1908年(明治41年) に制定された市章は、港を表す「いかり」と開港五港を表す「五」に「雪環」を頂いたデザイン。

1926年(大正15年) 県営小浜完成。近代的港湾としての機能が整備され、対岸貿易の門戸として栄える。

1969年(昭和44年) 東港区開港。日本海沿岸の工業開発の拠点として、臨海工業地帯と一体的に整備された。

2003年(平成15年) 万代島地区に「ピアBandai」がオープン。今年5月に開催されるG20新潟農業大臣会合の会場。

2019年(平成31年) 開港150周年を迎える。



Starting port 150
みんなでつくる、みなとまち新潟スタート!

開港150周年を新しい新潟を切り開くスタートとして、地域の総合力で「みなとまち新潟」を盛り上げていきます。

新潟開港150 検索

スマートフォンはこちらから ▶



Nii port ブランドによる情報発信

商品開発プロジェクト 「みなとまち新潟スイーツ」

にぎわい創造プロジェクト 「みなとまちラッピングバス」

みなとまちの歴史を意識した都市デザイン

開港150周年を契機に「都心軸」中心のまちづくりを推進

メモリアルイベント

2/9(土) 開港150周年記念シンポジウム

●基調講演「開港150周年の新潟のまちづくり」
講師 西村幸夫(東京大学名誉教授)

●パネルディスカッション「Starting port—みなとまち新潟の新たな船出」
コーディネーター 菊野麻子(フリーアナウンサー)

出演 高橋すみ(料亭鍋茶屋女将)、中原八一(新潟市長)、西村幸夫、野内隆裕(路地連新潟代表)、花角英世(新潟県知事) ※五十首順

■13:30~16:00 ■先着250人 ■無料
■だいしホール(中央区東堀前通7)

■電話で市役所コールセンター(☎025-243-4894)
■新潟開港150周年記念事業実行委員会事務局(☎025-226-2162)

企業・市民団体などとのコラボレーション

30社以上の企業とパッケージ開発 「企業連携」

市民団体などの活動を支援 「みなとまち助成」

地域の行事や取り組みとタイアップ 「パートナー事業」

問い合わせ先 ●新潟港の振興・整備促進について 新潟港空港課(☎025-226-2739) ●クルーズ船について 国際・広域観光課(☎025-226-2614)
●新潟開港150周年記念事業について 新潟開港150周年推進課(☎025-226-2162)